

## オオアカゲラ *Dendrocopos leucotos* (Bechstein)

### 【選定理由】

主に標高およそ 1,000m 以上の山地で局地的に繁殖するキツツキで、生息数はごく少ない。生態に不明な部分が多いが、愛知県の調査では、繁殖期を含め、現在まで継続した観察記録があるのは段戸裏谷のみで、茶臼山では 2000 年以降の記録が希となっている。

### 【形態】

全長 28cm。上面は黒色で背から翼にかけて白斑があり、下面は淡黄白色で腹と下尾筒は淡い赤色。側胸と脇には、黒褐色の縦斑がある。雄は頭頂が赤く、雌は黒い。体は、類似種のアカゲラよりもひと回り大きい。



長野県, 2016年5月22日, 杉山時雄 撮影

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

標高およそ 1,000m 程度以上の原生林や二次林に周年生息しているようであるが、非繁殖期に低山へ移動する個体もある。

#### 【国内の分布】

留鳥として生息するが、4 亜種に分けられ、北海道には亜種エゾオオアカゲラ *D. l. subcirris*、本州北中部には亜種オオアカゲラ *D. l. Stejnegeri*、本州西部、四国、九州には亜種ナミエオオアカゲラ *D. l. namiyei*、奄美大島に亜種オーストンオオアカゲラ *D. l. owstoni* が分布するとされている。

#### 【世界の分布】

小アジア、コーカサス、ヨーロッパ西部からバイカル湖を経てロシア沿海地方、サハリン、朝鮮半島、中国、台湾に分布する。

### 【生息地の環境／生態的特性】

県内では標高およそ 1,000m 以上の原生林や、落葉広葉樹が主で針広混交の二次林などで繁殖し、周年同じ環境に生息するものも多い。ただし、繁殖期と思われる 6 月初旬に 500m 程度の標高でも複数の確認記録があるので、繁殖環境については不明な部分がある。非繁殖期には低山に移動する個体もあるが、平地までは降りず、通常は標高 300m 程度以上の場所で越冬する。キョツ、キョツ、キョツ、ケレレなどと鳴くが、他のアカゲラやアオゲラ、イカルなどもよく似た声を出すので、声だけでの識別は困難と思われる。ドラミングのリズムや音でのアカゲラやアオゲラとの識別も、実際には困難であろうと思われる。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

毎年継続した繁殖期の観察記録があるのは段戸裏谷のみであるが、面の木原生林や茶臼山の他、標高 500m 程度の二次林でも繁殖期の記録がある。繁殖は局地的であり、一年を通して県内の生息数は極めて少ない。原生林や良好な二次林の価値が一般にはほとんど評価されていないため、生息適地が減少している。

### 【保全上の留意点】

現在県内に残る原生林や二次林の環境は僅かであり、積極的に保全されるべきである。

### 【特記事項】

中部地方では通常標高 1,000m 程度以上で繁殖する種であるが、岡山県や広島県では 200m 以下の標高でも繁殖しており、電柱が木であった頃には本種が穿った電柱の穴でブツポウソウが繁殖していた。本州北中部には亜種オオアカゲラ、西部には亜種ナミエオオアカゲラが分布していることから、中国地方と中部地方の繁殖標高の差は、亜種の違いであることが推測される。

### 【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.115. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)